



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

わたしが脱炭素アクションを続ける理由。

脱炭素アクションみえのくち 2025 活動報告書

みんなで
脱炭素アクション!



Carbon Zero Action
MIZONOKUCHI



プロローグ

脱炭素アクション溝の口を広める。

まるゝとサステナCAMP

脱炭素モデル地区である溝の口ではじまった

脱炭素アクションみぞのくちプロジェクト

令和8年2月時点で**68社**の企業・団体が

DAM（脱炭素アクションみぞのくちの略）企業として

一緒に脱炭素に向けた取り組みを行っています。

そんななかで、2023年度に立ち上がったのが

まるゝとサステナCAMPです。

高校生から20代前半の社会人がインターンとして集まり、

環境問題の専門家であるメンターや

DAM企業などから脱炭素への取組を学びます。

その知識をSNSなどで情報発信するほか、自分たちの

特技や日頃の活動と結び付けた行動を起こします。

3年間の取組と、活動を経て感じていることを

わたしが脱炭素アクションを続ける理由

として、有志のインターンでまとめました。

2023 年度の活動

メンターによる授業



環境の専門家であるメンターによる授業で、脱炭素や環境問題について学ぶことから活動が始まりました。

LINE スタンプ



かわいいスタンプで、身近に脱炭素を感じてもらおうと、地産地消やサステナブルをテーマにしたLINEスタンプを作成しました。

まち歩きナゾトキ



溝の口駅周辺を巡りながら、ナゾトキができる冊子を作成・配布しました。インターンの高校生が冊子のデザインまで手がけました。

まるっとサステナバンド



音楽が得意・好きなメンバーが集まって、地域のシンガーソングライターとともに、オリジナルソングを制作。レコーディングを実施しました。

2024 年度の活動

日崎工業株式会社訪問



太陽光パネル付きのトレーラーハウスを製造し、工場にも太陽光発電を取り入れている日崎工業株式会社を訪問。トレーラーハウス活用についてのワークショップも行いました。

まるっとサステナ ファッションショー



まるっとサステナフェスティバルにて、着なくなった服を再利用し、海洋プラごみのアクセサリーを身に付け、ファッションショーを実施。ステージではダンスパフォーマンスを行いました。

カンキツオイルプロジェクト



市内で収穫されずに残っている柑橘の皮を蒸留したアロマオイルを精製する株式会社ナンバーバルの山梨の蒸留所で、精製をお手伝いしました。

脱炭素レシピ



地産地消にこだわり、のらぼう菜を使用したレシピを専門家と考案。のらぼう菜のスープは、社会福祉法人はぐるまの会が運営する「ふれっしゅふぁーむはぐかふえ」でメニュー化され、販売されました。

2025 年度の活動

タンタン 水素 | ノー炭炭メン本舗プロジェクト



インターンキックオフの際に出た「脱炭素ラーメン」のアイデアが、川崎市・三菱化工機株式会社・元祖ニュータンタンメン本舗の協働により実現。発案の田村さんは店頭バナーにも登場しました。

わたしの脱炭素アクション！ 株式会社ちとせ研究所訪問



市内での脱炭素アクションを 30 本の動画に。動画の内容が一目でわかるようなイラストを、インターンが一丸となり作成しました。



大阪万博にも出展された、株式会社ちとせ研究所を訪問。燃料にも化粧品にも、食品にもなれるという藻の可能性についてお聞きしました。

まるっとサステナフェスティバル

脱炭素アクションみぞのくち」メンバー企業、まるっとサステナ CAMP の
インターン、アーティスト、ミュージシャン、飲食店、農家さんたちと、
自分たちにできる「脱炭素アクション」を発信しました！

バナー展示



脱炭素に取り組まないと、私たちの街がどうになってしまうのか、身近に感じてもらうため、プロの知見を取り入れながら、1枚にまとめました。



脱炭素のために必要なものを考えていただく街頭インタビューを実施。シールもみんなでデザインし、来場者のみなさんに貼っていただきました。

QRコードマン



私たちの活動を広めるため、QRコードのかぶりものを作成。会場を練り歩き、多くの人に読み込んでもらいました。

ステージ



ステージでは、廃材を打楽器にした音楽演奏のほか、脱炭素ラーメンの取り組み発表、脱炭素クイズ大会、トークショーを実施しました。

DAM 企業メッセージ

水素でつくる「水素 | ノー炭炭メン本舗プロジェクト」は、まるっとサステナ CAMP の学生の発案からスタートしました。脱炭素社会に向けたその純粋な想いが、市や企業を動かし、個や組織を超えた官民学一体プロジェクトとして今も連鎖しています。

私たちが目指すのは、ここ川崎から持続可能な未来をカタチにすることです。社会課題に自分事として向き合う皆さんの姿勢こそが、世の中を変える原動力だと確信しています。この共創で得た経験を糧に、これからも「社会をより良く、面白くする」志を持ち続けてください。皆さんと共に歩めることを誇りに思います。

これからも、**最高の「未来」を一緒に創っていきましょう。**

三菱化工機株式会社 企画管理統括本部 企画部 山田 宏一

インターンの活動を配信中！

ご紹介した活動はごく一部。インスタや note では、活動内容をよりくわしく発信しています。ぜひフォローをお願いします！



Instagram



まるっとサステナCAMP

川崎市・溝の口を中心に活動する「まるっとサステナ CAMP」です。高校生から20代前半の社会人がインターンとして集まって、脱炭素について学び、自分たちの特技や日ごとの活動と結びつけて脱炭素社会に向けたポジティブなアクションを起こします！

note



まるっとサステナCAMPインターン

(50音順)

2023

大塚瑠奈 鬼丸翔琉 小谷真央 こでらみう
園田晴菜 高橋淳音 高橋駿人 田中悠太
野末結月 畑野 然 深澤美乃 藤田和為
本江志織 前田 初 松熊心咲 益田大誠
山本 学

2024

磯崎日向 大塚瑠奈 金田理沙 木村 花
黒沼南帆 小谷真央 清水愛華 菅谷一瑠
末吉ここ音 園田晴菜 高橋淳音 高橋駿人
田中悠太 畑野 然 花岡里紗 本江志織
前田 初

2025

天野莉穂 稲田早希 大塚瑠奈 小川紗里
柿沼明奈 金田理沙 木村 花 小谷真央
こでらみう 佐野文活 園田晴菜 高橋淳音
高橋駿人 田中悠太 田村奈々 花岡里紗
春宮利音 本江志織 眞期彩由美 山本 暖

これより先は、インターン生たちの
わたしが脱炭素アクションを続ける理由
をまとめました！

私がこの活動に参加したなかで、特に印象に残っているのは、『脱炭素ラーメン』です。自分も、もともと脱炭素に対して堅苦しいような、縁遠いようなイメージを抱いていたのですが、だからこそ、多くの人に脱炭素に対してより身近に考えて欲しい、個人でできることがたくさんあるということを知って欲しいと思うようになりました。そして、脱炭素と、身近なものであるラーメンを組み合わせることで、それは達成されるのではないかと思いつき、考案したものが『脱炭素ラーメン』でした。初めは本当に思いつきに過ぎなかったものでしたが、企業様方や川崎市役所の方、まるっとサステナキャンプのメンバーの皆の協力のおかげで、無事多くの方に脱炭素ラーメンを食べてもらうことができました。脱炭素は、個人でできるものもたくさんあるし、誰とも関係のないものでは決してありません。この活動を通して、私は強くそう思い、そしてそれをたくさんの人にも知っていただくことが、今の目標です。

専修大学 人間科学部 社会学科 2年 田村 奈々



脱炭素をより身近なものにした
わたくしが脱炭素アクションを続ける理由
から。

わたしが脱炭素アクションを続ける理由



仲間とつくる、川崎の未来

まるっとサステナキャンプに参加して良かったことは、川崎で沢山の人と交流するきっかけが増えたことです。地域イベントや企業訪問の際は小さな子供から大人まで幅広い世代の方とお話することができるのが毎回の楽しみです。そして、同世代の仲間とインターン活動を通して川崎を盛り上げることができて嬉しいです！

〈活動の様子〉



みんなでゴミ拾い！



家にあるものを使って演奏♪



衣装もサステナブル！



話し合い中...



制作者：金田理沙

わたしが脱炭素アクションを続ける理由

あの時、自分事になったから



環境に興味を持ったきっかけ
私はマイクロプラスチック拾いをしたときに見た東扇島の砂浜一面に広がるゴミの量にショックを受け、環境問題は他人事ではなくなりました。

どんな小さいアクションでも 脱炭素への第一歩

袋はもらわないなど日常での選択、
ワークショップで環境について考えたり、SNSを使った発信



1人では不可能でも仲間と可能にする。
完璧じゃなくて良い。
環境にやさしい選択を「当たり前」に
できる自分で在りたい。



桜美林大学1年 園田 晴菜

わたしが脱炭素アクションを 続ける理由

好きなことを活かせるから



地元の川崎が好きで参加しました。

紙芝居やポスター
私だからできる！と思える
活動をたくさんすることが
できました。これからも私
なりの脱炭素アクションを
発信していきたいです。



横浜国立大学1年生
小谷真央



わたしが脱炭素アクションを続ける理由

地元で社会貢献と 地域発信をすることが楽しい！

私が脱炭素アクションを続ける理由は、「地元で社会貢献と地域発信をすることが楽しい！」ということです。2023年のインターンに任命された当初は、環境問題への興味がさほどない状態でした。しかし、まるっとサステナCAMPでの活動を重ね、地球環境の現状を知るうちに環境問題への関心も高まっていきました。そして、もともと文字や文章を書くことが好きな私は、インターンとしてWEB（2期目以降はnote）記事のライターを積極的に担当してきました。その数、3年間で10回程です。記事を書く過程で自分自身の理解や考えが深まることも、ライターの魅力だと思います。私たちの記事は、もしかすると本当に読んでほしい相手である一般の方へは届きにくいものなのかもしれません。それでも、記事が上がった後には「私の発信したことを誰かが読んでくれている」と毎回実感することができ、モチベーションになりました。私は今後も、地域活動を続けながら、文字や文章を通して地域の魅力を地域社会に発信していきたいです！

青山学院大学
コミュニティ人間科学部1年生
大塚瑠奈



わたしが脱炭素アクションを 続ける理由

自分の好きなことが、小さなことでも
脱炭素アクションの一步に繋がると知ったから。

「得意」と「脱炭素」を
つなげることで、楽しむこと

今年初めて参加した
「まるっとサステナCAMP」。
脱炭素についてなにも知らなかった
自分でも、得意なイラストなどを
通して脱炭素アクションをする
ことができました。
「脱炭素アクション」は、小さな
一歩から少しずつやっていける
ものだと知ることができました。



今年度の活動は、
「脱炭素は大変なことではない」
「発信するだけでなく、
自分たちも脱炭素を楽しむ」
ということが軸になっていた
ように感じます。

この1年間の活動は、楽しさで
溢れていました。インターン生が
楽しんで活動をすることで、きっと
他の人にも伝播して広まっていく
と信じて、これからも続けていき
たいと思います。

S高等学校3年生
小川 紗里



わたしが脱炭素アクションを続ける理由



今年のキャッチフレーズは脱炭素を意識高いと思わせないこと

私は1期から「まるっとサステナCAMP」に参加してきました。その中で沢山の脱炭素アクションを学び発信してきました。しかし周りの同世代からの声は『脱炭素って意識高い系の人がやることだよ』でした。

今年度の初めのキックオフではこういった意見の中で私たちが今年体现する脱炭素アクションは意識高い系だと思わせないアクションをして、発信していこう！でした。



1期から3期までの軌跡

1期の頃は私も高校2年生でした。得体の知れない脱炭素というものに触れ、全てが初めてで真新しい経験でした。2期では自分たちで考えを持ちそれを体现する。という年でした。まるっとサステナファッションショーでもエコな衣装を作成してファッションショーという自分とは程遠いけど多くの人の目につき脱炭素を伝えるアクションを行いました。3期の今年はそれらを踏まえて、今までは発信だけだったアクションがどうしたら「人に伝わる」ようになるかを試行錯誤した年だったと思います。「人に伝わる」というために『バズる』という目標かつキャッチコピーを掲げました。

私たちは比較的小さい頃から地球温暖化の事や環境問題について学校で学んできました。だからこそ、これからの未来の川崎・日本のためには間違いなく一人一人の意識の変化が必要です。意識が高くなくても目の前の小さな「脱炭素アクション」をすることが、川崎の明日のために私達が行動できることだと信じています。これからも私たちは「脱炭素アクション」と川崎の明日を変えることができると信じて頑張ります！

まるっとのお調子者
田中 悠太



わたしが脱炭素アクションを 続ける理由

びじゅつ×脱炭素？！

生活している中で「脱炭素」というコトバを
みたり、きいたりする機会って
まだ「SDGs」ほどではないかも。
そんなモヤモヤの中、この活動に関わることで
情報収集力も高まりました。

「脱炭素」もみんなが
これからも明日をずーっと迎えるためには
世界で、住んでいるいまこの地域で
身近に感じたい取り組みのひとつ。

そんな存在が、どこか「美術」のようだと
感じることもあります。

「何かをしなくてはいけない」ではなく、
やってみようかな！できるかも？ から。
企業や社会だけでなく、そのわの中に自分もいる。

まずは、「意識すること」
その次に「生活に変換」を。

こでらみう



私が脱炭素アクションを続ける理由

私にとっての居場所のひとつだから

初めての地域活動はドキドキ！

初めてまるっとに参加した日のことは絶対忘れません！なぜなら意識高い人じゃないし、なんか周りのみんなが賢そうだし、絶対わたし場違いじゃん！って思ったから(笑)

まるっとへ参加した理由は、ノク千基地の山本さんに「音楽と脱炭素でなにか繋がりができないかなって思って…」と誘われたから。音楽と脱炭素はさすがに無理じゃないか？って思いながらもちょっと楽しみになって参加を決めました。



私にとっての宝もの

インターンに参加していく中で、脱炭素バンドもできたし、古着を使用した衣装製作もできて、自分の経験値がすごく上がりました。

また、友達以上の仲間ができて、活動をしている大人や企業のみなさんとも出会えることができました。

脱炭素アクションは楽しい。でもそれ以上に人とのつながりがたくさんできたことが、本当に私にとっての宝ものです。

賢くない私にとって脱炭素アクションは難しいと思っていました。でも…日本や世界の今を知る
ペットボトルから水筒に持ち替える
古着屋さんで気に入った服を買う
それだけでも十分な行動だと学ぶことができました。

そして一緒に活動ができる仲間ができてすごく嬉しいです！
これからも私ができることから脱炭素アクションをしていきます！



社会人1年生 本江 志織

一人旅が趣味の
大学1年生、デザイン学生です。

自分が学んでいる、
プロダクトとか。

建築とか。

ユニバーサルデザインとか。

脱炭素に絡めたら面白くない？
と思いました。

ゼロカーボン社会をデザインできたら、
きつといい世の中になるはず！

いや絶対なる。

きつと、
世の中を動かす切り札だから。

わたしが脱炭素アクションを続ける理由——

ハルミヤ リオン
春宮 利音

Léon Harumiya



続けなければ地球が危ないから。むしろ、続ける以外に道はない。

「かーぼんにゆーとらる」は知ってるよね?」「なにそれ?」これは、コロナが猛威を振るう直前 2020 年の初め頃、知人と実際に交わした会話です。後者が私。つまり私は、数年前まで脱炭素ひいては環境問題について何一つ知らなかったのです。そんな私がインターンにお呼ばれ。市の若者を代表して入るからにはできるだけ多くのことを学ぶべきだと考え、数々の活動へ積極的に参加。さいたまへ、相模湖へ、都留へ、お台場へ、色々な場所へ行きましたが、最も印象深く残った活動は本拠地、溝の口での講義でした。

2023 年の初夏。もしも太陽が無くなったらという仮説に恐怖を感じたことを今でも覚えています。太陽光はもちろん、風力でも水力でも再生可能エネルギー発電ができないという事実。枯渇性エネルギーで発電量を補填しても排出する CO2 が増えるなか、固定を担う植物も育たない地獄。一説によると温室効果ガス等により地球規模で平均気温が 4°C 上昇するだけで川崎の沿岸部は海水面下です。全ての再生可能エネルギーの源、あって当然だったはずの太陽。そして迅速な環境問題への取り組みの必要性を改めて意識した講義でした。

3 年間のインターンを通して得たものは知識と危機感、そして半回りも若い友人達でした。後輩から見られているという緊張が私をピンと引き締めました。時にはトチったこともあったけど、拙いながら先達の役割を果たせたと思っています。彼らには今後も頑張ってもらいたいです。

「講義の前後は予習・復習が欠かせないぞ」かけがえのない経験と気づきを与えてくれたインターンには感謝しかありません。

本当に楽しかった。

ありがとう、そしてさようなら。

まるっとサステナインターン、永遠なれ。

高橋 駿人



Design by Leon Harumiya

わたしが脱炭素アクションを 続ける理由

老後まで豊かな地球に
住み続けたいから！

環境問題については小学校の頃から学んでいる世代なので、「この地球で老後を迎えられるのか」と、どこか絶望に近い不安を持って生きてきました。

まるっとサステナキャンプは、このような深刻にも捉えてしまいそうなテーマに取り組むグループですが、みんなが明るくて、のびのびと自由な発想を出し、だけどそれを本当に実現させて着実に脱炭素アクションやその普及をしている、楽しい不思議な環境です。

私は2024年度はサステナファッションショーの衣装作り、2025年度はあったらいいなマップの作成に主に関わりました。

活動を通じて、水筒の携帯や自転車の使用といった小さなことでも「できている」と前向きに捉えられるようになり、今では古着屋に通うようになったり、工夫して物を再利用したりと、自分の生活も変化しています！

脱炭素が節約や新しい出会いにつながる楽しさの輪を、もっとたくさんの人に広げていきたいです。

お茶の水女子大学2年生
花岡里紗



さいごに。

今回、本冊子および表紙、
そしてお聞きいただいたプレゼンテーションは、
私たちの活動を少しでも知っていただきたいという思いから制作しました。
地域や社会の課題に対して、
若者なりに考え、悩み、
行動してきたその過程と成果を、
等身大の言葉と表現でまとめています。
本冊子を通して、私たちの取り組みにご興味を持っていただくとともに、
「若者にも、社会を動かす力がある」
ということを感じていただければ幸いです。

インターン 春宮利音

協力していただいたみなさま

umipla・川崎市地球温暖化防止活動推進センター・元祖ニュートンタンメン本舗
さがみこべリーガーデン・スナイプバレー合同会社・株式会社ちとせ研究所
なないろ畑株式会社・株式会社ナンバーバル・日崎工業株式会社・株式会社プラチナム
三菱化工機株式会社・NPO 法人みどりなくらし・さいたま市・川崎市
ダンサー 藤平真理・シンガーソングライター 芽亜利ジェイ・デザイナー山田淳史
株式会社ガッコム 山田洋志・環境 NGO ビジネスディベロップメントアナリスト細谷優希
武蔵野大学准教授博士明石 修ほか、川崎市内の企業および川崎市民のみなさま

Presented by
みんなで
脱炭素アクション！



Carbon Zero Action
MIZONOKUCHI

脱炭素アクションみぞのくち 2025 年度活動報告

制作 / まるっとサステナキャンプ

令和 8 年 3 月 12 日発行

事務局 / 川崎市環境局脱炭素戦略推進室



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

ベジタブルインク・古紙パルプ 60% 再生紙を使用